

2007年ダカールラリー プレビュー

2006年PWRC / APRC総括

奴田原文雄シリーズランキング2位獲得!

www.ralliart.com

三菱自動車 25年目のダカールへ。

7年連続・12回目の総合優勝を目指し、
1月6日、ポルトガル・リスボンをスタート!



ART

目指すは記録と記憶に残る一戦……三菱自動車が、自らの最多勝記録を更新し、同一チームとしては未踏の7連覇&通算12勝目を目指す2007年ダカールラリー(通称パリダカ)がいよいよ迫ってきた。

通算28回目の開催となる今大会は、史上最高の接戦が演じられた前回大会をさらにしのぐ激戦になると予想されている。この一戦に「チーム・レプソル三菱ラリーアート」としてエントリーする三菱自動車チームは、まったく新規に開発した新型パジェロエボリューションを4台投入。日本のエース、増岡浩を筆頭に、前回と同じ4人のドライバーが駆る強力な布陣を取る。とくに2年連続で悔しいリタイアを喫している増岡には、通算3度目となる総合優勝の期待が高まる。

前回に続いてポルトガルのリスボンがスタート地に選ばれた今大会は、ダカールラリー史上で初めて、完全に年があらたまってから競技が始まる日程となった。ラリーは1月6日にスタートし、ポルトガルでスペシャルステージをこなした後にスペインを通過し、フェリーでジブラルタル海峡を渡ってアフリカに上陸。モロッコ、



今大会にも三菱自動車チームの前には強力なライバルたちがそろそろ。最も注意すべきは「打倒三菱自動車」に燃えるSVW(写真左上)。彼らと同じくディーゼルのエンジンを搭載するBMW(写真右上)や、車両規則上、軽量で有利なバギーのシュレッサー・フォードも依然あなどれない。

モーリタニア、マリを経てアフリカ西海岸のセネガルに入り、1月21日に首都ダカール近郊のラックローズにゴールする計16日間の戦いとなる。なお、ラリー中に1日だけ設けられる休息日は1月13日にモーリタニアのアタールで設けられる。

三菱自動車のモータースポーツ統括会社MMSPの鳥居殿社長は「ライバルの台頭により、今大会はこれまでで最も厳しい戦いとなることでしょう」と言う。

とりわけ最大のライバルと目されるのがフォルクスワーゲンだ。車両規則上、吸気リストラクターの影響をほとんど受けないディーゼルエンジンを2ステージターボで武装。その初登場時から速さを見せ、前回大会では初優勝を飾った三菱自動車チームのリュック・アルファンと最終日まで激しく競ってみせた。しかし、彼らの挑戦を、総合力で上回る三菱自動車チームはことごとく退けてきたのだ。

鳥居はさらにこう続ける。「我々は、新型パジェロエボリューションの開発に、これまで以上に懸命な努力を傾けてきました。そしてスタッフ全員が勝利に向かって全力を尽くしています。わずかながらでもアドバンテージを持つのは我々だと思っていますし、7連勝と通算12勝で自らの記録を更新する自信があります。そして6月に亡くなった三菱自動車チームのかけがえのないコ・ドライバー、アンリ・マーニュと彼の素晴らしい業績にその勝利を捧げたいと願っています」

1983年大会に初代パジェロの市販車無改造仕様で初めて参戦して以来、三菱自動車は今大会で通算25回目のダカールラリーを迎える。他の追従を許さない圧倒的な経験と実績。これらをあますところなく發揮し、ひとつの節目となる一戦を最高の結果で飾るべく全力で臨む三菱自動車チームの挑戦から目を離せない。



2007年ダカールラリー開催概要

スタート：2007年1月6日(土) ポルトガル・リスボン
通過国：ポルトガル、スペイン、モロッコ、モーリタニア、マリ、セネガル
ゴール：2007年1月21日(日) セネガル・ダカール
SS数：15
SS合計距離：4,813km
総走行距離：9,043km

チーム・レプソル三菱ラリーアート

2007年ダカールラリー出場体制

[チーム体制&ドライバーラインナップ]

チーム代表:鳥居 殿 チームディレクター:ドミニク・セリエス
メインスポンサー:レプソル(スペインに本拠を置く石油会社)



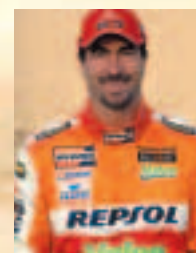
ステファン・ペテランセル

出身:フランス
年齢:41歳
コ・ドライバー:
ジャン・ポール・コト(フランス)
キャリアハイライト:
ダカールラリー2輪部門
総合優勝6回
2004&2005年ダカールラリー
4輪部門 総合優勝



増岡 浩

出身:日本
年齢:46歳
コ・ドライバー:
パスカル・メモン(フランス)
キャリアハイライト:
2002&2003年ダカールラリー
4輪部門 総合優勝
2001&2004年ダカールラリー
4輪部門 総合2位



リュック・アルファン

出身:フランス
年齢:41歳
コ・ドライバー:
シル・ピカール(フランス)
キャリアハイライト:
1997年アルペンスキー
ワールドカップチャンピオン
2006年ダカールラリー4輪部門
総合優勝



ホアン・ナニ・ロマ

出身:スペイン
年齢:34歳
コ・ドライバー:
アンリ・マーニュ(フランス)
キャリアハイライト:
2004年ダカールラリー
2輪部門 総合優勝
2006年ダカールラリー
4輪部門 総合3位



三菱自動車チームはドライバー&コ・ドライバー全員参加の合同トレーニングを年に数回実施。その内容は、トレーニングからメンテナンス、バイクやシューテリング、コンパスを使っているオリエンテーリングなど、多岐にわたる。チームワークを鍛える秘訣にもなっている。



サポートカーに新型「デリカD:5」を投入

今回のダカールラリーで、三菱自動車チームはスタッフと各種機材を運搬するサポートカーに、2007年初頭に発売予定のワンボックスタイプのミニバン「デリカD:5(ディーファイブ)」を使用する。ドライバーは田口勝彦が担当し、MMSP鳥居社長ほか数名のスタッフが乗車する予定。

[出場車両]

三菱パジェロエボリューション(MPR13)



ダカールラリーで無敗を誇ってきた従来型の優位性を継承しつつ、トータルバランスを一層向上させるコンセプトで新規に開発された最新鋭のクロスオーバーラリーカーが新型パジェロエボリューション(MPR13)である。車体は、従来のサブフレーム構造を廃止した、一体構造による完全新設計のマルチチューブサブフレームを採用し、軽量化および高剛性化を実現。容量500Lの燃料タンクや4本のスベアタイヤなどの重量物の搭載位置を見直し、大幅な低重心化とマスの集中化も遂げている。併せて、トレッドが広げられ、サスペンションジオメトリも一新。走行安定性と操縦安定性の格段の向上を果たした。なお、車両のフロントマスクとリヤビューには、2006年10月より発売開始となった4代目となる新型「パジェロ」と共通イメージのデザインを与えている。

三菱自動車が1983年から25年連続してダカールラリーに挑み続けてきた中で培ってきた圧倒的な技術とノウハウを惜しみなく注ぎ込んだ集大成、それがMPR13なのである。



三菱自動車の2007年ダカールラリー情報はこちらから

➔ [三菱自動車モータースポーツ公式サイト](http://www.mitsubishi-motors.com/motorsports/j/)
<http://www.mitsubishi-motors.com/motorsports/j/>

25th Anniversary MITSUBISHI MOTORS in the DAKAR RALLY

プライド激突。

三菱自動車、ダカールラリー連続参戦25年目の節目に
新型パジェロエボリューション(MPR13)を4台投入。
史上最高の激戦に真っ向勝負を挑む!

2007年ダカールラリー プレビュー



アルファン、ダカール前哨戦を快勝!



2006年ダカールラリー優勝で見せた強さと速さに、さらに磨きかけたことを印象づけたアルファン。CCR開幕戦ホーラス・パンバスターリーに続く快勝を飾った



ついを実験デビューしたMPR13は、さらに向上した走行性能を遺憾なく発揮。同ラリー終了後もチームは現地に残り、今回出場しなかったホアン・ナ・ロマも合流して最終テストを実施した



序盤で出遅れ、結果は奮わなかった増岡。だが「やれる」という手応えをつかんだことは、このSS直後の晴れ晴れとした表情からも読み取れる。MMSPの鳥居社長も自然と笑顔で迎えていた



王者・三菱自動車を送り出してきた新型車だけにライバルも興味津々。フォルクスワーゲンで走る元WRCチャンピオンのカルロス・サインツも、MPR13のクビツを上げがけのぞき込んでいた



ダカールラリーの前哨戦だけあって、今回のUAEには有力チーム&ドライバーがこぞって参戦。事前の記者会見には、ダカールでの優勝争いを演じることになるであろう、豪華な顔ぶれがそろった

11月5～10日にアラブ首長国連邦(UAE)で開催されたFIAクロスカントリーラリー・ワールドカップ(CCR)最終戦UAEデザートチャレンジにおいて、チーム・レプソル三菱ラリーアートのリュック・アルファンが優勝。新型バジェロエボリューション(MPR13)で出場したステファン・ベテランセルが2位に入り、三菱自動車チームが1-2フィニッシュを飾った。

砂漠を主体に行われる同ラリーは、ダカールラリーに向けた最後の実戦テストの場と見なされ、今回も三菱自動車チームのほか、フォルクスワーゲン、BMW、シュレッサー・フォードなどの強豪がこぞって参戦してきた。そんな中、アルファンは第2レグから一度も首位を譲ることなくフィニッシュ。三菱自動車に同ラリー通算8勝目をもたらした。また、注目のMPR13もSS3で圧倒的なトップタイムを刻むなど、期待どおりの速さを発揮。第1レグでミスにより喫したタイムロスが大きく響いたが、それでもベテランセルは第3レグまでに2位へと急浮上。以後もMPR13は大きなトラブルなくラリーを走り切り、ポテンシャルの高さを鮮やかに証明した。

残念だったのは2年前の同ラリー勝者である増岡浩だ。第1レグでミスコースにより出遅れたうえに、第2レグではクラッチトラブルに見舞われて、一時10位まで順位を下げたのだ。だが、その後は安定した走り巻き返し、7位でフィニッシュ。ダカールラリーに向けて良好な感触を手にした。

田口勝彦、シリーズランキング3位で閉幕



シリーズ前半はクラッシュが目立ったミエティネンだが、第4戦ラリー北海道以降は連続して上位完走。豪快な走りの中にも安定感が出てきた



経歴豊富な熱帯アジアでの2戦で連勝を目指したKATSUだったが、結果は正反対なものに。チームMRFタイヤとしてはハードウェアの面でさらなる熟成の必要性を痛感させられたシーズンに

2度目のAPRC総合チャンピオンを目指した「KATSU」こと田口勝彦。しかし、8月の第5戦マレーシアラリー、9月の第6戦ラリー・インドネシアと、得意とする2戦でバンクによる決定的なハンディを背負い、スバル・インプレッサを駆るオーストラリア人のコーディ・クロッカーにタイトル獲得を許す、非常に悔しい結果となった。

APRC1位を守り切って第1レグを終えた。しかし、第2レグに入ると路面とタイヤがマッチせず、クロッカーの先行を許すことに。それでも前戦に続くAPRC2位でゴールしてみせ、着実な成長ぶりを改めて印象づけた。

なお、シリーズ最終戦チャイナラリーは11月25～27日に開催され、KATSUは無念のリタイアを喫してシリーズランキング3位で終了。ミエティネンもトラブルによってリタイアし、シリーズ5位で初のAPRCフル参戦を終了した。

インドネシアを前にして、逆転王座の可能性を残すためには優勝する以外になかったKATSUだったが、23.51km

増岡浩 連載コラム

砂漠への招待状 vol.7

2007年は絶対に負けられない。

いよいよ、もうすぐダカールラリー本番です。2年続けて悔しいリタイアを喫してきましたので、今度は何としても結果を出したい!! とくに、今回は三菱自動車にとって25年目、そして僕自身にとっては20年目のバリダカ。この記念すべき一戦の勝利を、ぜひとも僕が飾るように頑張ります。

11月にはバリダカの前哨戦となるUAEデザートチャレンジに出場してきました。MPR13のデビュー戦だったわけですが、残念ながら完成車両はまだ1台しかなく、僕は従来型のMPR12で出場しました。結果はご存じの方も多いと思いますが、ミスコースとクラッチトラブルが続いて、総合7位での完走。もちろん、悔しい!! でも、僕もコドライバーのパスカル(メモン)も、バリダカ本番の前に気を引き締め直すチャンスを持ってよかった、とプラスに捉えています。



UAEでは砂丘三昧。今度のバリダカでも砂丘のステージが増えるようなので、僕の本领を存分に発揮していきたいと思っ

そう思えるのも、いい手応えをいろいろつかめたからです。実戦は5カ月ぶりでしたけど、ほぼ狙いどおりのドライビングができました。それに、今回はステファン(ベテランセル)が走らせたMPR13が、彼のミスによる以外にまったく大きなトラブルを出さずに走り切ったことも力強い。UAEは気温が高く、砂丘が多いステージ構成で、冷却系にはとくに厳しいイベントですから、ここで大丈夫ならバリダカでも問題ない。実戦で確認できた速さも期待どおりで、あのクルマで戦える今度のバリダカが本当に楽しみです。

12月には三菱自動車チームの2006年で2回目の合同トレーニングが5日間にわたってあります。単純な筋肉トレとかは各自やっていることなので、ここでは体力とともに、精神力やチームワークを養うプログラムが組まれています。地図とコンパスを使ってチェックポイントをクリアしていくオリエンテーリングでは、ドライバーとコドライバーがペアになるんですけど、わざとラリーのときは違うコンビにするんです。前回の僕のパートナーは、普段はステファンと組んでるジャン・ポール(コレ)でした。他のチームにはない、三菱自動車チームの結束力の強さというのは、こういうところから来てるんですよ。

12月中旬には南フランスでバリダカ仕様のMPR13のシェイクダウンを行います。そして本番のスタートは1月5日。ステファンとリュック(アルファン)はきっと最初から全開でいきましょう。それにカルロス・サインツとアリ・パタンのフォルクスワーゲン勢も突っ走って来ると思っています。

でも僕のアプローチは違います。何しろ長い戦いのバリダカですから、攻めどころと抑えどころを考え、ベース管理をきちりやって、最高の結果を引き寄せたいと思っています。

ご声援をよろしくお願いします!

Profile: 1960年3月13日、埼玉県生まれ。1987年から三菱自動車チームよりダカールラリーに参戦。2002年、2003年と2年連続で総合優勝を飾っている世界を代表するプロフェッショナル・クロスカントリーラリードライバー

7回目! 田口勝彦 連載コラム KATSUのいつだってエボリューション

手応えもあり、悔しさもあり.....やっぱり悔しい!!

残念! 2度目のAPRCチャンピオンの可能性を残すべく、必勝を期して臨んだインドネシアでしたが、非常に悔しい内容のラリーになってしまいました。

今回は、チームメイトのヤルコ(ミエティネン)に突っ走ってもらってライバルのコーディ(クロッカー)にプレッシャー

をかけ、僕は確実に走りながら最後は勝つ(笑)という作戦でした。ところが、第1レグ最初のロングステージでもたしても悪夢のバンク! 8月のマレーシアラリーでのバンク同様、何かに当たってたわけでもないのに.....

その後も悪いことが続いて、今回のインドネシアはとってもキツイラリーになってしまったんですけど、それでも最後まで踏ん張って完走してきました。でも、またまた悔しさ1000%です!

肝心のコーディは、ヤルコが頑張ってプレッシャーをかけた続けてくれたものの、結局何も起こらず総合2位。そしてAPRCではシーズン5度目の優勝を飾ってチャンピオンを決めてしまいました。

でも正直な気持ちとして、2006年のコーディには「あつぱれ」と言うほかありません。何より、上手だし、安全マージンを取りながらも速かった。だけど僕らも、これまで以上にベースを上げて戦うことができたし、シーズンを通じてかなりの手応えをつかみながらラリーを走ることができました。2007年のことはまだ決まってませんが、またAPRCに挑めるのであれば、確実に2006年のコーディのレベルを上回っていかないと、と燃えています。

9月の下旬には東京のお台場で行われたモータースポーツ・フェスティバルに出演し、ラリージャパン参戦車でデモ走行をさせていただきました。このイベントではF1やGTマシンなどもたくさん走って、入場無料だったのでお客さんも2日間で11万人も来場され大賑わいでした。

それから、2007年1月のバリダカに行くことになりました! と言っても、僕がラリーに出場するわけじゃなくて、サポートカーとして走る2007年発売予定の新型「デリカD:5」のドライバーを担当することになったんです。アフリカは1996年のサファリラリーに、優勝したトニー・マキネンのサポートメカニックとして参加したとき以来、「デリカD:5」の格好の耐久テストにもなりますし、三菱自動車のバリダカ7連覇・12勝目に少しでも貢献できるよう頑張ります。

田口勝彦オフィシャルホームページ
http://www.ralliart.co.jp/katsu/

Profile: 1972年2月7日、岡山県生まれ。22歳より海外に渡り、ランサーエボリューションで国際ラリーの経験を積んできた。1999年にはAPRC総合チャンピオンを獲得。株式会社ラリーアート社員



「激闘のシーズンを終えて」



おかげさまで無事にシーズンを終えることができました。PWRCは自己ベストのシリーズ2位ということになったんですけど、本音を言わせてもらえば、やっぱり悔しいですね。3年目でチャンピオンを獲る、というのが僕らの当初からの目標でしたから。一方、序盤の出遅れが最後まで響いたかじりになった全日本ラリー選手権の方は、何とか挽回できて、初の総合王者とシリーズ6連覇を達成することができました。

PWRCでは初優勝を含めて3回勝てたわけですけど、とくに開幕戦のモンテカルロとキプロスは狙って行って、ずばり勝ち獲ったといううれしさがありません。オーストラリアでは正直言っていまひとつでしたけど、すぐに行われるニュージーランドに向けて、限られた選択肢の中で見直しを図って、その結果、ハイスピードのあのラリーでこれまでにない高いレベルで戦えた。あれはまさにチーム力の向上の表れだったと思います。チームやマシン、タイヤ、そして僕自身と、あらゆる面でぐんぐん成長していることを実感しながら戦ったシーズンでした。

チャンピオンを獲るためにはどうすればいいのか。そのやり方が、かなりはっきり見えてきたように感じています。2007年のことがハッキリするのはこれからですけど、同じ体制でぜひもう一度、タイトル獲得を目指してアタックしたいと思っています。



< 右上写真 > 歴史に名を刻んだモンテカルロでの勝利。無理を言っても横浜ゴムにモンテカルロ専用タイヤを用意してもらって挑戦し、つかんだ勝利だった。< 左下写真 > 新たなコ・ドライバー、イギリス人のダニエル・バリエットが果たした貢献も見逃せない。< 右下写真 > PWRC挑戦3年目を迎え、ADVAN PIAAラリーチームの謙度も一層向上した

躍進の一年。

三菱ランサーエボリューション&奴田原文雄
3年目のPWRCをシリーズランキング2位で締める



▶▶▶ PWRC [FIA プロダクションカー世界ラリー選手権] FIA PRODUCTION CAR WORLD RALLY CHAMPIONSHIP

グループN規定のラリーカーのみで争われる最後のシーズンとなった2006年のPWRC。この世界選手権に2004年から挑戦を開始し、着実に経験と実績を積み上げてきた奴田原文雄選手は、「シリーズチャンピオン獲得」を目標に掲げて3年目のシーズンに挑んできた。ライバルの出方やパフォーマンスを冷静に判断し、それに人一倍旺盛な好奇心を加味して今シーズンの出場イベントを選択。開幕戦ラリー・モンテカルロでの日本人初優勝を皮切りに、母国ラリー・ジャパン、地中海の孤島キプロスラリーと3勝をマークする大躍進を遂げ、公約どおりチャンピオン争いの一角に躍り出る。自然と、世界が彼に向けて視線も一気に熱を帯びたものへと変わってきた。

しかし、当の奴田原文雄選手はどこ吹く風。シーズンのフィナーレを飾るラリー・オーストラリア、そしてラリー・ニュージーランド



第6戦キプロスでは、事前に立てた戦略どおりにラリーを戦い、それが見事に的中してシーズン3勝目をマーク。奴田原文雄選手とチームの成長ぶりを大いに示した一戦に

へ向けても、とくにプレッシャーなどを感じさせる様子はない。実際、彼はかねてより自らをこう評している。「僕は天才でも何でもなし。運動神経が特別いいわけでもない。ただ、ラリーが好きだから、もっとうまくやりたい、いろんなラリーを走ってみたい。応援して下さる人たちのためにも結果を出していきたい、それだけのことなんです」

着実に経験と実績を積み、その上で次なる目標を定める。それが奴田原文雄選手の流儀なのだ。

チャンピオン獲得を目指し、一戦一戦を大切に戦うべく臨んだ南半球の2連戦。だが、オーストラリアでは3月の第2戦ラリー・メキシコ以来のターボトラブルが発生。第3レグ途中で撤退となり、スーパーラリー規定の適用を受けてPWRC7位・2ポイントの加算にとどまった。これで、逆転王座のためには最終戦ニ

ュージーランドで奴田原文雄選手が優勝し、その上でシリーズ首位のカタルドドライバー、スバル・インプレッサを駆るネッサールアティア選手が5位以下となる必要がある。タイトル争いは一気に厳しい状況となった。

しかし「相手のことは考えない。自分の走りに徹するだけ」と奴田原文雄選手。ニュージーランドの“キャンパーロード”に果敢にアタックし、第1レグからトップ争いに絡んでいく。ところが、第2レグ前半のSS7で喫したパンクが、彼のリズムを狂わせた。続くSS8でコースアウト。前戦に続いてスーパーラリーの適用となり、実質的にここで奴田原文雄選手のタイトルチャレンジは決着した。とはいえ、復活した第3レグでは再び上位タイムを連発し、その躍進ぶりを改めてアピール。彼自身、少なからぬ手応えをつかんでシーズンを締めくくった。

並行して2006年もシリーズ参戦した全日本ラリー選手権では圧巻の5連覇を成し遂げた奴田原文雄選手。不惑の40歳を過ぎても、まだまだ成長し続けていく希有な男の挑戦は続く。



通算3度の表彰台を獲得し、シリーズ3位に入ったミルコ・バルダッチ。アクロポリスでベナルティを呼び込んだチームのミスや、ニュージーランドで首位走行中のギヤボックストラブルがなければ、チャンピオン争いの一角をなしていたに違いない



エアーニ・チーム・グループからラリー・ジャパンを含む5戦に出場したPWRCの常連ステファノ・マリニ。最上位はモンテカルロでの4位で、その後もポイントをうまく拾い続けて自己ベストのシリーズ8位を得た



2006年はブジョーのWRカーでフル参戦したマンフレッド・ストール率いるストールレーシングが運営したOMV CEEラリーチーム。PWRCに設定されたチーム登録制を活用して、出場6戦で4名のドライバーがドライブした



WRRC第13戦ラリー・トルコ
グループN総合優勝: ユリ・シャボヴァロフ

PWRC非開催イベントのトルコを制したのは、グループNカーで初めてのWRRC出場だったシャボヴァロフ。マシで難しし走行条件の中で、2位以下に4分以上の大差をつけて、ウクライナ初のWRRCグループN優勝を達成した

群馬三菱自動車に勤務しながら全日本ダートトライアルに長年参戦。その一方、WRCラリージャパンに社員有志によるチームから3年連続で参戦してきた荒井信介選手。シリーズ後半に猛追してきた吉村修選手を2ポイント差ながらもしぎ、通算4度目の覇者となった



ALL JAPAN DIRT TRIAL CHAMPIONSHIP

閉鎖されたオフロードコースで各車1台ずつ、計2回のタイムアタックを行い、そのベストタイムを競い合うダートトライアル。一般公道を走るラリーとも、複数のマシンが同時に走るラリークロスとも違う、日本独自の競技である。

その最高峰である全日本ダートトライアル選手権の2006年シーズンは、改造範囲や駆動方式などの違いにより、計9クラスが開催され、そのうち三菱車ユーザーは7クラスに参加。とくに、市販車からほとんど改造できないN車両で争われるN3クラスでは、ランサーエポリューションが2年連続で8戦全勝を獲得。同時にシリーズ上位18位までを独占す

るという圧倒的な強さを発揮した。

そのチャンピオン争いを繰り広げたのは荒井信介選手と吉村修選手。決着は最終戦まで持ち越され、その1本目のトライアルではポイントリーダーの荒井選手がトップタイム。だが、2本目で吉村選手が逆転し、ライバルと並ぶシーズン3勝目を獲得した。ただしシリーズポイント(全8戦中上位6戦分のポイントが有効)では、わずか2点差ながらも荒井選手が吉村選手をしのご、2年連続チャンピオンを確定させるとい劇的な展開となった。

一方、改造無制限のDクラスにおいても三菱車ユーザーが全8戦中7戦で優勝を飾る活躍を見せた。

全日本ダートトライアル選手権

激戦のN3クラスで荒井信介選手が2連覇達成!

そんな中、チャンピオンを獲得したのは2004年の王者である河内渉選手。ランサーエポリューションのフロントマスクを持つミラージュのモンスターマシンを操り、シーズン3勝をマーク。2年ぶりのタイトルを確定させている。

この他、ナンバー付きながらもN車両より改造範囲が広いSA車両で行われるSA2クラスでは、北島広実選手がシリーズ2位に。ナンバーなしの改造車によるSC3クラスでは、炭山義昭選手が3勝を挙げてシリーズ2位を確定させるなど、今年も出場各クラスで三菱車が大いに活躍したシーズンとなった。



<写真左端>河内選手はシリーズ前半で一気に3勝を挙げ、後半も安定して上位に入って2度目のDクラス王者となった。<写真中上>シリーズ後半の勢いは衰えなかったN3クラス2位の吉村選手。<写真右上>N3クラス2年目の田嶋克典選手は第7戦前まで1勝をマーク。<写真中下>改造車使いの炭山選手はSC3クラスで3勝を挙げたが、残念ながらタイトルには届かなかった。<写真右下>優勝はなかったSA2クラスの北島選手だったが、毎戦安定した速さを見せシリーズ2位に

JAPANESE RALLY CHAMPIONSHIP

全日本ラリー選手権



シリーズ前半の出遅れを挽回し「仕事」を完遂した奴田原選手

奴田原選手、圧巻の5年連続王座獲得

2006年も全日本ラリー選手権とPWRCの双方にシリーズ参戦した奴田原文雄選手が、5年連続、通算7度目となる全日本チャンピオンを獲得した。同選手権は11年ぶりに2輪駆動部門と4輪駆動部門が統合され、クラス区分も変更。総合順位による選手権も新たに導入された。ポイントは全8戦のうち上位7戦分が有効であったが、奴田原選手はPWRCと日程が重なった一戦の欠場を余儀なくされ、ライバルより出場イベントが1戦少ないハンディを抱えていた。そしてスバル・インプレッサの勝田範彦選手を2ポイント差で追いかける立場で迎えた最終戦を3位でフィニッシュ。対する勝田選手はマシントラブルからリタイアを喫し、奴田原選手がJN4クラスと総合部門のダブルタイトルを確定させた。

なお、この最終戦では田口幸選手が優勝、石田雅之選手が2位となり、ランサーエポリューションの1-2-3フィニッシュとなった。



最終戦で2年ぶりの勝利を飾った田口選手(左)と佐藤選手

ALL JAPAN GYMKHANA CHAMPIONSHIP

全日本ジムカーナ選手権



最終戦で茅野選手が一矢報い今季初優勝を飾った古谷哲也選手

三菱ランサー出場全クラスで全戦全勝

8戦が開催された2006年の全日本ジムカーナ選手権だが、新たに登場したランサーエポリューションIXがシリーズを席巻。出場したN4、SA3、SCの3クラスの全戦において同車ユーザーが優勝を果たすという圧倒的なパフォーマンスを見せた。いずれのクラスにおいても、チャンピオンは最終戦の前に決定。N4クラスは6勝して満点を獲得した茅野成樹選手が2連覇。SA3クラスは5勝を挙げた川脇一見選手が全日本デビュー以来20年目で初のチャンピオンを手中に。そしてSCクラスでは谷森雅彦選手が2年連続の全戦優勝という圧倒的な成績で5年連続となる王座防衛を果たした。

これら3クラスの全戦におけるランサーエポリューションのシェアは実に78.1%に達し、「ランサーのライバルはランサー」という状況に。「勝つためのマシン」としてエントリーから寄せられた絶大な信頼を、より確かなものとしたシーズンとなった。



谷森選手は大迫力SCクラスでの連勝記録を「18」にまで更新中

SUPER TAIKYU SERIES

スーパー耐久シリーズ



HINOKI選手組は前年の第6戦以来の勝利を最終戦で飾った

中谷 / 木下選手組が堂々の王座奪還

市販車ベースのマシンによる耐久レースとして高い人気を誇るスーパー耐久シリーズ。中でも激戦のSTクラス2(換算排気量2001~3500ccの4輪駆動車)において、中谷明彦 / 木下隆之選手組が5勝をマークし、2年ぶりにチャンピオンを奪還した。これで中谷選手は5回目、木下選手は4回目の同シリーズ王座に。木下選手は前身のN1耐久シリーズ時代からの通算優勝数が「42」となり、歴代最多優勝ドライバーとなった。

また、真夏の第4戦富士では小川日出生 / 砂子塾長 / 阪口良平選手組が優勝。さらに最終戦ツインリンクもてぎでは、HINOKI / 和田久 / 大瀧賢二選手組が1年ぶりの勝利を獲得。これにより、7戦が行われたシリーズ全戦においてランサーエポリューションが優勝を飾り、ラリーやスピード競技のみならず、サーキットレースにおいても高いパフォーマンスを誇ることを改めて証明した。



最終戦は不運なリタイア。だが速さは断トツだった中谷選手組

2006年9~11月 海外 / 国内モータースポーツ主要結果表

RESULT

FIA世界ラリー選手権(WRC)		FIAプロダクションカー世界ラリー選手権(PWRC)		FIAアジア/パシフィックラリー選手権(APRC)		全日本ラリー選手権		スーパー耐久シリーズ STクラス2	
第12戦 キプロスラリー 9月22-24日	順位 ドライバー/コドライバー	第10戦 キプロスラリー 9月22-24日	順位 ドライバー/コドライバー	第6戦 ラリー・インドネシア 9月16-17日	順位 ドライバー/コドライバー	第6戦 KRCORO Transera Kumumindara Rally in Akaigawak 北海道 9月23-24日	順位 ドライバー/コドライバー	第6戦 SUGOSU(スーパー耐久)SUGO/400km 9月30日-10月1日	順位 ドライバー
1 S.ロウ/ロ.エナ	シトロエン	1 奴田原文雄/D.バロカ	三菱自動車	1 新井健弘/T.ワカム	スバル	1 *炭山義之/沼尾雅彦	スバル	1 中谷明彦/木下隆之	三菱自動車
2 M.ロドリゲス/T.ラウチアイン	フォード	2 A.チエコソ/N.チエコソ	スバル	2 *中谷明彦/小柴和貴	スバル	2 *北村和浩/豊田隆彦	スバル	2 菅原孝輔/小柴和貴	スバル
3 M.スニール/L.ミエ	プジョー	3 D.ハロウ/シ.バナス	三菱自動車	3 *柳澤登喜/奥田洋 正	スバル	3 *石田正史/宮城孝仁	三菱自動車	3 清水和夫/樋口和也	三菱自動車
4 *スルビヤ/シ.バナス	シトロエン	4 S.カサマキ/T.アレス	フォード	4 *藤澤登喜/奥田洋 正	スバル	4 大瀧 幸/井沢 薫	三菱自動車	4 小川日出生(CMSCLB)/砂子塾長/阪口良平(CMSCLB)	三菱自動車
5 *M.ロドリゲス/T.ラウチアイン	シトロエン	5 *M.スニール/G.マウニール	シトロエン	5 *田口幸彦/M.ステュー	三菱自動車	5 *大瀧 幸/井沢 薫	三菱自動車	5 大瀧 幸/井沢 薫	三菱自動車
6 *M.スニール/L.ミエ	プジョー	6 *M.スニール/G.マウニール	シトロエン	6 新井健弘/T.ワカム	スバル	6 *大瀧 幸/井沢 薫	三菱自動車	6 稲塚孝輔/TOSH.ARA/木下みゆ子	スバル
第13戦 ラリー・トルコ 10月13-15日	順位 ドライバー/コドライバー	第7戦 ラリー・オーストラリア 10月27-29日	順位 ドライバー/コドライバー	第7戦 チョウナンラリー 11月25-26日	順位 M.C.S.ラリー(ハードンスター-定 岐阜) 10月21-22日	順位 M.C.S.ラリー(ハードンスター-定 岐阜) 10月21-22日	順位 ドライバー/コドライバー	第7戦 もてぎスーパー耐久3007km(ツインリンクもてぎ/3時間) 11月11-12日	順位 ドライバー
1 M.ロドリゲス/T.ラウチアイン	フォード	1 J.M.ラウ/シ.バナス	スバル	1 *中谷明彦/小柴和貴	スバル	1 *中谷明彦/小柴和貴	三菱自動車	1 HINOKI / 和田 久 / 大瀧賢二	三菱自動車
2 M.ヒルボネン/レ.ラウチアイン	フォード	2 M.ロウ/シ.バナス	三菱自動車	2 R.メロン/シ.バナス	スバル	2 *石田義之/清田英次	三菱自動車	2 菅原孝輔/小柴和貴	スバル
3 *M.ロドリゲス/T.ラウチアイン	プジョー	3 D.ハロウ/シ.バナス	三菱自動車	3 *藤澤登喜/奥田洋 正	スバル	3 *藤澤登喜/奥田洋 正	三菱自動車	3 清水和夫/樋口和也	スバル
4 *スルビヤ/シ.バナス	シトロエン	4 A.チエコソ/N.チエコソ	三菱自動車	4 *柳澤登喜/奥田洋 正	スバル	4 大瀧 幸/井沢 薫	三菱自動車	4 大瀧 幸/井沢 薫	スバル
5 *カサマキ/T.アレス	フォード	5 S.カサマキ/T.アレス	フォード	5 R.ウ/シ.バナス	三菱自動車	5 *大瀧 幸/井沢 薫	三菱自動車	5 稲塚孝輔/佐藤幹徳	スバル
6 *M.ロドリゲス/T.ラウチアイン	シトロエン	6 S.マリニ/T.サンローニ	三菱自動車	6 *R.ウ/シ.バナス	三菱自動車	6 *北村和浩/豊田隆彦	三菱自動車	6 藤澤登喜/TOSH.ARA/木下みゆ子	三菱自動車
第14戦 ラリー・オーストラリア 10月27-29日	順位 ドライバー/コドライバー	第8戦 ラリー・ニュージーランド 11月17-19日	順位 ドライバー/コドライバー	第7戦 FIAクロスカンリールワールドカップ(CCR)	順位 ドライバー/コドライバー	第9戦 三井オースポーツラン(福岡) 9月24日	順位 ドライバー	第9戦 三井オースポーツラン(福岡) 9月24日	順位 ドライバー
1 M.ヒルボネン/レ.ラウチアイン	フォード	1 J.M.ラウ/シ.バナス	スバル	第7戦 UAEエミラートチャレンジ 11月5-10日	順位 ドライバー/コドライバー	第9戦 三井オースポーツラン(福岡) 9月24日	順位 ドライバー	第9戦 三井オースポーツラン(福岡) 9月24日	順位 ドライバー
2 *M.ヒルボネン/レ.ラウチアイン	フォード	2 R.メロン/シ.バナス	スバル	順位 ドライバー/コドライバー	順位 ドライバー	第9戦 三井オースポーツラン(福岡) 9月24日	順位 ドライバー	第9戦 三井オースポーツラン(福岡) 9月24日	順位 ドライバー
3 *M.スニール/L.ミエ	プジョー	3 A.ロドリゲス/D.エムニョ	スバル	1 L.アラン/シ.バナス	三菱自動車	1 古谷哲也	三菱自動車	1 川崎一見	三菱自動車
4 *スルビヤ/シ.バナス	シトロエン	4 藤澤登喜/奥田洋 正	三菱自動車	2 S.ベナンセル/シ.バナス	三菱自動車	2 茅野成樹	三菱自動車	2 西原正樹	三菱自動車
5 *M.ロドリゲス/T.ラウチアイン	シトロエン	5 M.ロウ/シ.バナス	三菱自動車	3 M.シムラ/シ.バナス	三菱自動車	3 清川英次	三菱自動車	3 大瀧 幸	三菱自動車
6 J.M.ラウ/シ.バナス	シトロエン	6 奴田原文雄/D.バロカ	三菱自動車	4 C.スニール/シ.バナス	三菱自動車	4 菅井文文	三菱自動車	4 山田賢治	三菱自動車
第15戦 ラリー・ニュージーランド 11月17-19日	順位 ドライバー/コドライバー	第9戦 テクニックスターズ(茨城 広島) 10月8日	順位 ドライバー	第5戦 N.アラブ/シ.バナス	BMW	第9戦 テクニックスターズ(茨城 広島) 10月8日	順位 ドライバー	第9戦 テクニックスターズ(茨城 広島) 10月8日	順位 ドライバー
1 *M.ロドリゲス/T.ラウチアイン	フォード	第9戦 テクニックスターズ(茨城 広島) 10月8日	順位 ドライバー	第6戦 テクニックスターズ(茨城 広島) 10月8日	順位 ドライバー	第9戦 テクニックスターズ(茨城 広島) 10月8日	順位 ドライバー	第9戦 テクニックスターズ(茨城 広島) 10月8日	順位 ドライバー
2 M.ヒルボネン/レ.ラウチアイン	フォード	1 吉村 徹(CMSC大阪)	三菱自動車	1 北村和浩	スバル	1 大田雅文	三菱自動車	1 炭山義昭	三菱自動車
3 *M.スニール/L.ミエ	プジョー	2 大平邦夫	三菱自動車	2 大平邦夫	スバル	2 菅本 俊	三菱自動車	2 内川 英(CMSC長野)	三菱自動車
4 *スルビヤ/シ.バナス	シトロエン	3 菅井文文(CMSC千葉)	三菱自動車	3 菅井文文(CMSC千葉)	三菱自動車	3 北島広実(CMSC千葉)	三菱自動車	3 河内 英(CMSC広島)	三菱自動車
5 *M.ロドリゲス/T.ラウチアイン	シトロエン	4 川崎一見(CMSC広島)	三菱自動車	4 山崎賢治(CMSC広島)	三菱自動車	4 スズキ・アキオ(CMSC千葉)	三菱自動車	4 中野 浩(CMSC広島)	三菱自動車
6 *M.ロドリゲス/T.ラウチアイン	シトロエン	5 田嶋克典	三菱自動車	5 田嶋克典	三菱自動車	5 菅井文文	三菱自動車	5 山田賢治	三菱自動車
第16戦 ラリー・ニュージーランド 11月17-19日	順位 ドライバー/コドライバー	第9戦 テクニックスターズ(茨城 広島) 10月8日	順位 ドライバー	第6戦 テクニックスターズ(茨城 広島) 10月8日	順位 ドライバー	第9戦 テクニックスターズ(茨城 広島) 10月8日	順位 ドライバー	第9戦 テクニックスターズ(茨城 広島) 10月8日	順位 ドライバー
1 *M.ロドリゲス/T.ラウチアイン	フォード	第9戦 テクニックスターズ(茨城 広島) 10月8日	順位 ドライバー	第6戦 テクニックスターズ(茨城 広島) 10月8日	順位 ドライバー	第9戦 テクニックスターズ(茨城 広島) 10月8日	順位 ドライバー	第9戦 テクニックスターズ(茨城 広島) 10月8日	順位 ドライバー
2 M.ヒルボネン/レ.ラウチアイン	フォード	1 菅井文文	三菱自動車	1 菅井文文	三菱自動車	1 菅井文文	三菱自動車	1 菅井文文	三菱自動車
3 *M.スニール/L.ミエ	プジョー	2 菅井文文	三菱自動車	2 菅井文文	三菱自動車	2 菅井文文	三菱自動車	2 菅井文文	三菱自動車
4 *スルビヤ/シ.バナス	シトロエン	3 菅井文文	三菱自動車	3 菅井文文	三菱自動車	3 菅井文文	三菱自動車	3 菅井文文	三菱自動車
5 *M.ロドリゲス/T.ラウチアイン	シトロエン	4 菅井文文	三菱自動車	4 菅井文文	三菱自動車	4 菅井文文	三菱自動車	4 菅井文文	三菱自動車
6 *M.ロドリゲス/T.ラウチアイン	シトロエン	5 菅井文文	三菱自動車	5 菅井文文	三菱自動車	5 菅井文文	三菱自動車	5 菅井文文	三菱自動車

2006年、様々なモータースポーツシーンで大活躍を見せたCMSC選手達!!

2006年、三菱車を駆り様々なモータースポーツカテゴリーでコルトモータースポーツクラブ(CMSC)に所属する選手達が今季も大活躍を見せてくれました。
 '06全日本ダートトライアル選手権では、CMSC群馬・荒井信介選手がN3クラスで2年連続のシリーズチャンピオン獲得。CMSC広島・河内渉選手が'04年以来2度目のチャンピオンを達成。
 また、各シリーズの上位にも数多くのCMSC選手が名を連ね、様々なモータースポーツシーンで鮮やかに彩りを飾りました。

*CMSC(コルトモータースポーツクラブ)は、三菱車愛好者を中心としたJAF登録クラブで、東京の本部(会長:木全 剛)および全国25支部(各々独立JAF登録クラブ)から構成され、現在約700名の会員が活躍しています。

Champion 祝 全日本チャンピオン獲得!!

全日本ダートトライアル選手権 N3クラス シリーズチャンピオン!!**CMSC群馬 荒井信介選手**

車種 三菱ランサーエポリューションIX
群馬三菱自動車社員でCMSC副会長を務める。今季、第22回ラリーを飾り計3回優勝。また3度目となる06WRCラリージャパンにも参加し、活動の幅を広げている。
06年成績 第1戦 優勝、第2戦 優勝、第3戦 3位、第4戦 優勝、第5戦 3位、第6戦 8位、第7戦 4位、第8戦 3位



チャンピオン獲得のコメント
「前半戦は絶対強くて3勝し、そのまま逃げ切ったんですけど勝負は難しいもので、後半なかなかトップが離れず、不安定な自分に苛立ち、ずるずると最終戦で着。皆さんの応援のおかげで2年連続N3クラスチャンピオンが獲れた事本当に嬉しく、本当にありがとうございます。北海道大会で5年連続優勝できたことが今年一番思い出に残っています。来年は3年連続N3クラスチャンピオンを目指すか、クラス変更をするか、まだ決まっていますがどこにせよチャンピオンを狙っていきます。全国CMSC会員の皆さんに応援して頂きありがとうございます。これからも多くモータースポーツを楽しんで行きたいと思います!」

全日本ダートトライアル選手権 Dクラス シリーズチャンピオン!!**CMSC広島 河内渉選手**

車種 三菱ランサーエポリューションIX
広島が地元でベテラン選手。今季、第22回ラリーを飾り計3回優勝。三菱ランサーエポリューションIXの改良を担ったクルマで04年以来2度目となる王座を獲得。また06 JAFカップでも優勝した。
06年成績 第1戦 優勝、第2戦 優勝、第3戦 8位、第4戦 優勝、第5戦 2位、第6戦 3位、第7戦 5位、第8戦 2位



チャンピオン獲得のコメント
「CMSCの皆様は勿論、関係者の皆様のおかげでチャンピオンを獲得する事ができ、嬉しく思うと共に感謝の気持ちで一杯です。今後も大好きなモータースポーツを続けて勝負にこだわります。仲間と勝負を楽しみ、勝った時は心から喜び、負けたときは素直に勝者を祝福できるような、そんな楽しいモータースポーツが参りたいと思います。私が今まで続けてきた事、チャンピオンを獲得できた事も、CMSCをはじめ皆さんの大事な仲間がいたからこそです。年齢も住んでいる場所も、仕事も違う仲間が、同じ趣味で楽しんでいるのは、本当に素晴らしい事だと思います。これからもずっと大事な仲間との関係を、大切にしたいと思っています!」

各選手権で活躍したシリーズランキング2位、3位のCMSC選手達!!

全日本ダートトライアル選手権**CMSC大阪 吉村修選手 N3クラス、シリーズランキング2位**

車種 三菱ランサーエポリューションIX
全日本戦表彰台の高達。06シリーズ後半で2連勝を含む3回優勝を飾り、最後までN3チャンピオン争いを演じたが9位と及ばず。JAFカップで優勝した。
06年成績 第1戦 3位、第2戦 3位、第3戦 4位、第4戦 5位、第5戦 優勝、第6戦 優勝、第7戦 9位、第8戦 優勝

CMSC千葉 北島広実選手 SA2クラス、シリーズランキング2位

車種 三菱ランサーエポリューションVII
昨年シリーズ3位となった以来、上位に名を連ねるようになってきた実力派。優勝こそなかったものの2位3回を含み8戦7戦で6位以上を獲得した。
06年成績 第1戦 2位、第2戦 5位、第3戦 5位、第4戦 4位、第5戦 27位、第6戦 2位、第7戦 2位、第8戦 3位

CMSC岐阜 柳田正文選手 SA2クラス、シリーズランキング3位

車種 三菱ランサーエポリューションIX
今季はクルマを新調し面白いも新たに6回優勝1回にとどまらず、生涯現役ドライバーを目指して大ベテラン。
06年成績 第1戦 3位、第2戦 3位、第3戦 9位、第4戦 6位、第5戦 2位、第6戦 8位、第7戦 優勝、第8戦 9位

全日本ダートトライアル選手権**CMSC長野 宮入友秀選手 Dクラス、シリーズランキング2位**

車種 三菱ランサーエポリューションIX
29才若手ながらベテラン河内渉選手とシリーズタイトル争いを演じた期待のドライバー。優勝こそ、2位と2回しか取れなかったが活躍を見せた。
06年成績 第1戦 2位、第2戦 7位、第3戦 7位、第4戦 4位、第5戦 優勝、第6戦 4位、第7戦 2位、第8戦 優勝

全日本ラリー選手権**CMSC札幌 田中伸幸選手 Eクラス、シリーズランキング3位**

車種 三菱ランサーエポリューションIX
今季出場機会が全8戦中5戦だったものの優勝2回、2位、3位各1回と強さを見せた北海道出身のベテラン。
06年成績 第4戦 2位、第6戦 優勝、第7戦 優勝、第8戦 R、第9戦 3位

スーパー耐久シリーズ**CMSC山形 小川日出生選手/阪口良平選手 STクラス2、シリーズランキング3位**

車種 三菱ランサーエポリューションIX
CMSC山形 小川日出生会長が監修ドライバー。今季新人の阪口良平選手を起用し、優勝、2位2回を獲得。シリーズ3回。
06年成績 第1戦 2位、第2戦 6位、第3戦 4位、第4戦 優勝、第5戦 2位、第6戦 4位、第7戦 R

多くのCMSC選手が各シリーズで活躍し、シリーズ上位に名を連ねる!

その他にも数多くのCMSC選手達が様々なモータースポーツシーンで輝きを見せ、シーズンを彩った。以下にシリーズ4位~8位のCMSC選手を紹介します。

全日本ダートトライアル選手権**CMSC広島 川崎龍己選手 N3クラス、シリーズランキング4位**

車種 三菱ランサーエポリューションIX
06年成績 第1戦5位、第2戦28位、第3戦10位、第4戦2位、第5戦9位、第6戦3位、第7戦2位、第8戦4位

CMSC福島 谷津良嗣選手 N3クラス、シリーズランキング5位

車種 三菱ランサーエポリューションIX
06年成績 第11戦1位、第2戦2位、第3戦優勝、第4戦14位、第5戦10位、第6戦3位、第7戦11位、第8戦7位

CMSC千葉 山野光司選手 N3クラス、シリーズランキング6位

車種 三菱ランサーエポリューションIX
06年成績 第1戦4位、第2戦10位、第3戦8位、第4戦6位、第5戦3位、第6戦3位、第7戦9位、第8戦2位

CMSC長野 平田朋也選手 N1クラス、シリーズランキング5位

車種 三菱ランサーエポリューションIX
06年成績 第1戦3位、第2戦6位、第3戦11位、第4戦6位、第5戦3位、第6戦3位、第7戦9位、第8戦8位

CMSC鹿角 スマイリーナガヤマ選手 SA2クラス、シリーズランキング5位

車種 三菱ランサーエポリューションIX
06年成績 第2戦14位、第3戦4位、第4戦16位、第5戦8位、第6戦5位、第7戦3位、第8戦4位

全日本ダートトライアル選手権**CMSC広島 和田俊昭選手 Dクラス、シリーズランキング4位**

車種 三菱ランサーエポリューションIX
06年成績 第1戦13位、第2戦2位、第3戦優勝、第4戦10位、第5戦5位、第6戦8位、第7戦7位、第8戦3位

全日本ラリー選手権**CMSC埼玉 田口幸宏選手 JN4クラス、シリーズランキング7位(総合7位)**

車種 三菱ランサーエポリューションIX
06年成績 第1戦5位、第4戦4位、第6戦4位、第7戦R、第9戦優勝

全日本ジムカーナ選手権**CMSC茨城 大槻正選手 STクラス、シリーズランキング7位**

車種 三菱ランサーエポリューションVII
06年成績 第1戦4位、第2戦2位、第3戦4位、第4戦10位、第5戦5位、第6戦2位、第7戦2位、第8戦10位、第9戦5位

スーパー耐久シリーズ**CMSC栃木 錦野智行/船倉貴志/船倉宏志選手組 STクラス2、シリーズランキング位**

車種 三菱ランサーエポリューションIX
06年成績 第1戦6位、第2戦4位、第4戦6位、第5戦7位、第6戦8位、第7戦R

CMSCの詳しい情報は!
モータースポーツの楽しみ方は、ドライバーとして参加することももちろん、メカニックやオフィシャル、家族ぐるみで遊び楽しむ方もあります。ラリー、ダートトライアル、ジムカーナ、レースの参加や主催と様々なモータースポーツ活動を行っているCMSCの門をたいて、さらにモータースポーツを楽しみましょう!
もっとCMSCのことをお知りになりたい方は、是非CMSCホームページ(<http://www.ralliart.co.jp/cmssc/index.html>)をご覧ください。

価格: 2006年12月現在の取付工費を含む1希望小売価格

ラリーファン大満足のイベント 「第8回 鈴鹿ワールドラリーフェスタ2006」開催 The 8th SUZUKA WORLD RALLY FESTA 2006



11月23日(木・祝)三重県の鈴鹿サーキットにて恒例のラリーイベント「第8回 鈴鹿ワールドラリーフェスタ2006」が開催されました。

今年の鈴鹿は雨こそは降らなかったものの、曇りのどんよりとした天候。それでも、WRCファン必見のこのイベントには8000人のお客様が鈴鹿に詰め掛きました。デモンやドライバートークショー、さらにグストークショーにはなんとバリダカの増岡選手も登場し会場は盛り上がりました。

またデモンではSUZUKIのスィフト スーパー1600も参加。三菱は奴田原文雄選手と荒井信介選手、SUBARUは新井敏弘選手と勝

田範彦選手のラリードライバーがデモン。さらに途中、ラリージャパンのスーパーSSをイメージし、0カー(SUBARUインプレッサ)と00カー(三菱コルト RALLIART Version-R)が登場。そのあとでSUBARUインプレッサWRCと三菱ランサーエポリューション Gr-Nがコースを激走。本物のスーパーSSの光景を満喫できる演出となり、最後はハイタッチも行われ、歓声がやまない状態で盛況のうちに終了となりました。

また、展示車にはクロスカントリーラリーをイメージし、新型バジェロエポリューションや今年アジアクロスカントリーラリーで活躍した「チームH.D.C. TRITON」稲葉選手のトライトン、そして増岡選手とともに2002バリダカールラリー総合優勝車など、クロスカントリーで活躍した車両を展示。クロスカントリーラリー車

ファンにこたえる奴田原文雄選手



「三菱ラリーチーム群馬」によるサービシオン

は迫力があり、見学する人も、自分との大きさの比較等をし、本格的なクロスカントリーラリー車との記念撮影をされる方で終始盛況でした。

今回、三菱自動車/ラリー・アートブースでは商品の販売はもちろんのこと、「スタンブラリーランサーくん」が行われ、お子様も楽しめるゲームコーナーとして、「WRG(ワールドラリーゴルフ)」と「チョコQホールインワン」、さらにこの2種のゲームを制覇すると、スタンブラリーランサーくんにスタンプが押せるコーナーも登場。スタンプを集めてランサーくんを完成させると、何とワールドラリーフェスタのロゴが入ったランサーくんの姿に完成。そしてランサーくんを完成させることができた方へはチョコQをプレゼント。チョコQ目当てに会場は終始盛り上がりしていました。

「第3回 Mitsubishi Motors Fan(MMF) OWNER 'S MEETING in 京都」にラリーアートが出席



10月29日(日)、三菱自動車の京都製作所にて、三菱車オーナーによる「第3回 Mitsubishi Motors Fan(MMF) OWNER'S MEETING in 京都」というファンの集いが開催されました。「燈きを解き放て」をテーマに、会場には総勢600台の三菱車が車種ごとにずらりとならび、全国から1,500人以上の三菱車オーナーの方々が集結。その1台1台の車にもオーナーの個性、チューニングやカスタマイズなどさまざまな車へのこだわりが見え、そして大切にされているようでした。

ラリーアートも今回で3回目の参加。新型バジェロエポ7バリダカ出張レブリカやトライトンのアジアクロスカントリーラリー出張車をはじめとするモータースポーツ車両やラリーアートのチューニングカー等の展示、ラリーアートピット京都によるラリーアート商



トライトン(左)と07バジェロエポ MMFでは初となるバリダカ体感試乗

品販売コーナーを設置。また、今回は当イベントでは初となるバリダカ体感試乗も開催され、大好評でした。このイベントを通じて皆さんと交流することができ、とても勇気付けられ、感動することばかり。三菱車オーナーの皆さん、ありがとうございました! こちらもご覧ください。

Mitsubishi Motors Fan(MMF)事務局 <http://mmfan.org/>



ラリーアート・メンバーズクラブ RALLIART MEMBER'S CLUB(RMC)

特典がついてさらに満足! 「鈴鹿サーキット合同体験走行with エンジョイコミュニケーション」

11月23日(木・祝)今年で8回目となる「鈴鹿ワールドラリーフェスタ」が開催されました。今年もRMC会員には特別バスをご用意し、会員は体感走行会やデモンを特別観覧席で見学することができました。さらに2回目のデモン終了時にはコース内に入り、奴田原選手と奴田原選手のラリー車と一緒に撮影ができる特典もありました。「会員で良かった!」などの意見も聞かえ、楽しそうな一日を過ごされていたようです。



ラリーアートピット

ラリーアートピットインター川崎が、12月10日(日)にオープン!

「ラリーアートピットインター川崎」が、第三京浜・川崎出口より1分ほどの位置に「ストリートライフ ワールドラリーSHOP」に併設して12月10日(日)にオープンします。都心からのアクセスの良い場所で、ピット専用ショールームには競技用パーツからラリーアートコレクションを充実させてライナップ。サスペンションやブレーキなどハードなパーツ交換のピット作業も可能です。ラリー&レースの競技ノウハウをアドバイス、目的に合ったチューニングの提案もいたします。併設のショールームには世界のモータースポーツパーツ・グッズなどを多く展示販売しており、見ているだけでも楽しいショールームです。オープン記念セールとして、特別価格でのお求めが可能です。また、ご来場者にちよっと変わった記念品を配布します。ぜひお気軽にお立ち寄りください。



ラリーアート ピット インター川崎 〒213-0013 神奈川県川崎市高津区末長1361 1 TEL 044-850-2226, FAX 044-850-2274 ウェブサイト:www.streetlife.co.jp/ralliart メール:ralliartpit@streetlife.co.jp 営業時間:平日10:00~19:00、日祭日10:00~18:00 休休日:火曜日

RALLIART NEW PARTS

トライトン用「クロスカントリー競技用サスペンションキット」新発売

「アジアクロスカントリーラリー2006」で見事完走を果たした「チームH.D.C.」の三菱 トライトンにも装着された実績のあるサスペンションキットです。ステアリングへの路面状況のフィードバックが良く、安定感が向上します。不整地における走行でも車体のフラット感を得ることが可能。ロール剛性を向上、旋回性も標準装着されているリヤハイブリッドL.S.D.とのマッチングにより、ダート路面等での走行性能もさらに向上した上級者向けのセッティングとしています。フロントショックアブソーバーはピロボール式、リヤショックアブソーバーは取付部は硬質ウレタン製ブッシュを装着。また、減衰力はフロントが伸側40段/圧側30段、リヤが伸側30段/圧側30段のダイヤル調整式タイプです。リザーバータンクはシリンドラーとの連結タイプでオイル容量を増加しています。

「クロスカントリー競技用サスペンションキット」内容

商品名	クロスカントリー競技用サスペンションキット
商品番号	RAKB9T01R1
税込価格(本体価格)	346,500円(330,000円)
備考	フロント車高調整式、フロントリヤ共減衰力調整式

価格は、2006年12月現在の取付工費を含む1希望小売価格

コルトRALLIART Version-R用「スポーツサスペンションキット」発売

この「スポーツサスペンションキット」は、減衰力固定式のショックアブソーバーとスプリングのキットです。ライドハイトの見直しおよびバネレートと減衰力のリセッティングを行った結果、特にコーナー進入および旋回時のロールを最適化をすることができ、スポーティな操舵感を向上させインディンクボードなどでもより楽しめるセッティングとなっています。さらに車輪の路面追従性も向上、トラクション性能と乗り心地の両立も達成しています。

「スポーツサスペンションキット」内容

商品名	スポーツサスペンションキット
商品番号	RAZ27301S1
税込価格(本体価格)	89,250円(85,000円)
備考	減衰力固定式、車高0-10mmローダウンショックアブソーバー&スプリングほか、構成部品(フロントストラット、リヤショックアブソーバー、フロントスプリング、リヤスプリング)も販売

価格は、2006年12月現在の取付工費を含む1希望小売価格

RALLIART COLLECTION 2006-2007 AUTUMN & WINTER

SPECIAL RECOMMENDED WEAR and GOODS

この冬、おすすめのウェアとグッズを紹介



機能性はもちろん、タウンユースもOKなおしゃれなフリースジャケット

「WRCフリースジャケット」

大好評のWRC MODELラインナップの中でも、特に活躍してくれそうなウェアが、このWRCフリースジャケットだ。冬のドライブでは、かさばるウェアでは動きづらく運転しにくい。そんなときは、暖かく肌触りの良い裏起毛のフリース素材を使用した「WRCフリースジャケット」が活躍する。

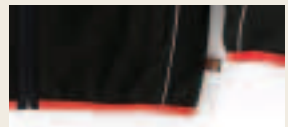
WRC MODELはその名の通りWRC(FIA世界ラリー選手権)の世界観をウェア・グッズで表現したアイテム。

総刺繍で表される三菱自動車モータースポーツマークや各テクニカルスポンサーのグラフィックが目目を引くが、ウェアの仕様にもさまざまな工夫が盛り込まれている。車にジッパーが当たり傷がついてしまうのを防ぐムシ隠し仕様や、夜間、ヘッドライト等に反射して視認性を高めるリフレクターパイピング。身頃や袖の裾の赤い伸縮性のあるテープは、デザインのアクセントになっているだけでなく、風の侵入を防ぎウェア内の温度を極力下げない工夫を施している。

「WRCフリースジャケット」(RAY0339WB)
 カラー:ブラック、サイズ:L・O(2L)、素材:ポリエステルフリース(ポリエステル100%)
 税込価格(本体価格):¥12,075(¥11,500)



テクニカルスポンサーロゴを表現



車にも優しいムシ隠し仕様

細かいパーツ部分までリアルに再現した 1/18サイズのダイキャストモデルに興奮

「ランサーエボリューションIX tuned by RALLIART ダイキャスト」

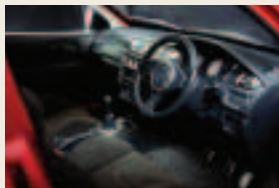


ラリーアートが余すところなく開発力を注ぎ込んだ、チューニング&ドレスアップパーツを身にまとった渾身の「ランサーエボリューションIX tuned by RALLIART」を忠実に再現したダイキャストモデル。インテリア面では、フルスケールの「スポーツコンピネーションメーター」と統一デザインの3連メーターキット「スポーツ1DINトリプルメーターキット」、「スポーツバグダセット リアルチタン」などを装着。外観は、軽量で剛性の高いカーボン製の「スポーツフロントアンダースポイラー」、18インチ鍛造1ピースホイール「Evolution R-01」。エンジンルームにもラリーアートパーツが再現され、単なるダイキャストの枠を越えた仕上がりとなっている。ラリーアート限定仕様として、ガレージをイメージしたボックスクリン付きでオリジナルモデルとしている。

「ランサーエボリューションIX tuned by RALLIARTダイキャスト」
 (RAY95064E)
 サイズ:1/18スケール、素材:亜鉛合金/ラバー
 税込価格(本体価格):¥11,970(¥11,400)



もちろんラリーアートパーツ装着済み



質感の高いインテリア

使うたびに手になじんでいく ヤギ皮製Sabeltのメカニックグローブ

「メカニックグローブ by Sabelt」



作業性を高めるラバースリップ止め

このメカニックグローブは、イタリア最大手シートベルトメーカーのSabelt社製。日頃のちょっとしたメンテナンスに最適な軽作業用グローブである。

手のひら面にラバースリップ止めの付いたやわらかなヤギ皮を採用。また、指先は高い感度を実現することで細かな作業にも最適である。手の甲は伸縮性の高いニット素材でフィット感を得られ、長時間の装着も可能。使い込んでいくうちに手になじみ、メンテナンス時には手放せなくなること間違いなし。縫製はシームレス(内側縫製)にすることで、力が掛かりやすい人差し指、親指部にも優しい仕様である。

*切創性、熱性の高い物に対する作業には適しません。

「RALLIARTメカニックグローブ by Sabelt」(RAY28023)
 素材:ヤギ皮・ラバー・ニット(ナイロン) サイズS(日本サイズM)・M(日本サイズL)
 税込価格(本体価格):¥3,990(¥3,800)

ウェア、グッズなど、豊富なラインナップを取り揃えた 2006-2007 AUTUMN/WINTERコレクション好評発売中!

通信販売 のご案内

お電話 フリーダイヤル☎0120-321466
 (9:30~18:00/月~金曜日[土曜日、日曜日、祝日は休ませていただきます])
 携帯電話、PHSからの場合は☎03-5486-7356
 FAX フリーダイヤル☎0120-707655(24時間受付)
 インターネット <http://cybershop.ralliart.co.jp>

お求めは上記通信販売またはラリーアートビット各店、全国の三菱自動車販売会社へ。
 カタログご希望の方は巻末にある請求券にてお求めください。
 商品のカラーは、印刷の関係で実際と異なる場合があります。



三菱ラリーカーの軌跡

~コルト1000Fから
 ランサーエボリューションWRCまで~
 発売中

三菱自動車がWRCで最強を誇ったグループA時代に車両開発をしていた著者(稲垣秋介氏)が、コルト1000Fでの国際ラリー出場から、ギャラン、ランサータリオン、ギャランVR4、そしてランサーエボリューションという三菱自動車のラリーカーの系譜を解説している。三菱自動車工業監修。
 山海堂刊 A5判・176頁 定価2100円(本体2000円)

編集後記

早いものでもうバリダカ
 の季節。仕事柄、増岡選
 手の取材に同行する機会
 が増えてきました。今年
 の増岡選手、優勝を狙う
 ぞという気合が満ち溢れ
 ています。みんなで応援
 しましょう!がんばれ、
 マスオカ!(小湊)

ラリーアートジャーナル Vol.116

発行:2006年11月30日
 編集:株式会社ラリーアート
 〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番7号
 徳栄ビル3階
 TEL:03-3798-3971 FAX:03-3798-3979



ラリーアートパーツ2006フルラインナップカタログ請求方法

ラリーアートパーツを掲載したカタログをご希望の方は、1月31日(当日消印有効)までに、必要事項(住所、氏名、年齢、職業)をご記入のうえ、カタログ請求券と共に封書が官製ハガキでお申し込みください。
 宛先:〒107-0052 東京都港区赤坂6-19-40-403 「ラリーアート係」

ラリーアートCOLLECTION 2006-2007 AUTUMN/WINTER請求方法

カタログをご希望の方は、1月31日(当日消印有効)までに、必要事項(住所、氏名、年齢、職業)をご記入のうえ、カタログ請求券と共に封書が官製ハガキでお申し込みください。
 宛先:〒154-8691 世田谷郵便局私書箱6号「ラリーアートコレクションカタログ係」

ラリーアート
 COLLECTION
 2006-2007 AUTUMN/WINTER
 請求券
 有効期限:2007年1月31日
 ラリーアートジャーナルVol.116